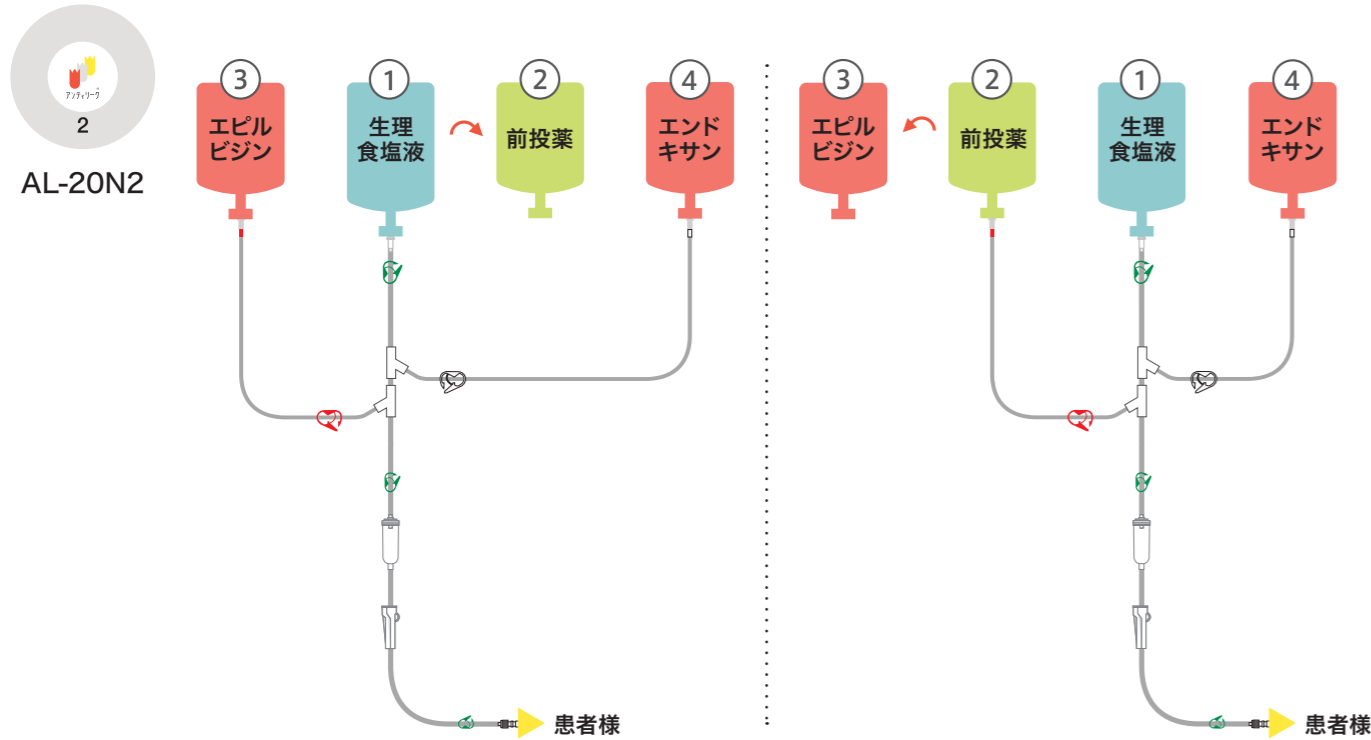


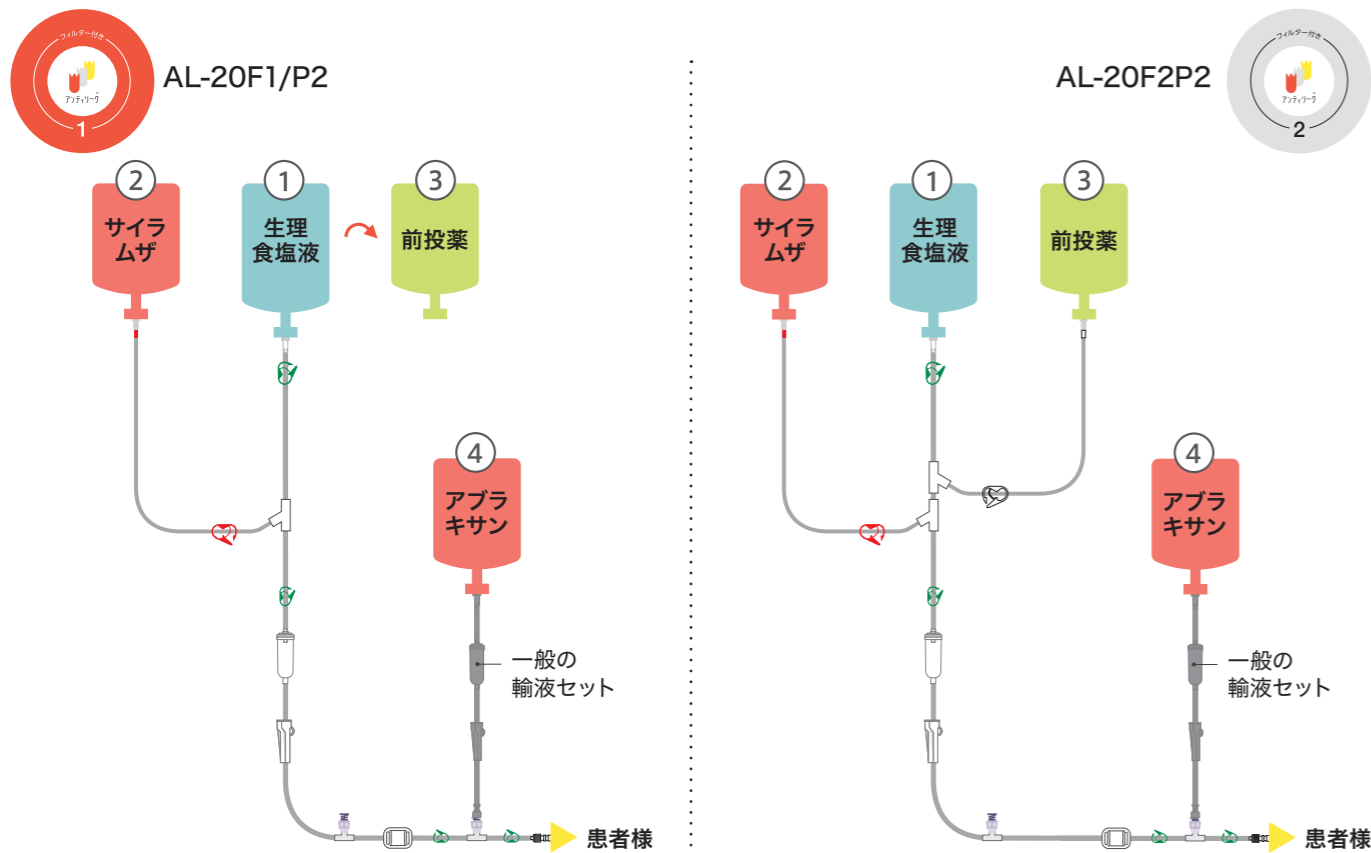
EC療法の場合 (2パターン)

※記載の投与パターンは一例です。施設ごとのレジメンに基づいて投与してください。



nab-PTX+RAM療法の場合 (2パターン)

※記載の投与パターンは一例です。施設ごとのレジメンに基づいて投与してください。

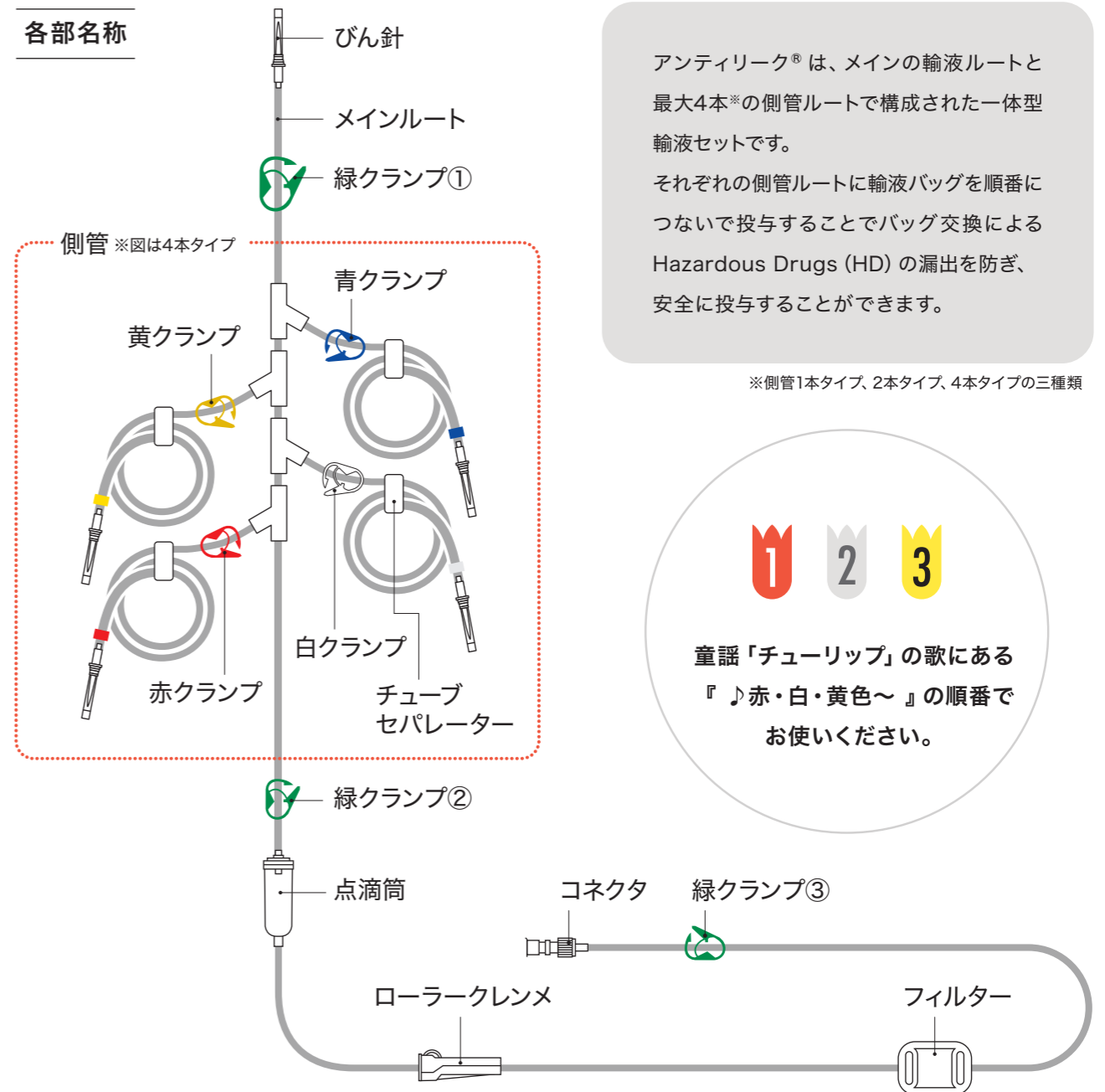


操作ガイド

Basic ベーシックタイプ

お使いになる前に、この説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
 お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

各部名称



アンティリーク®は、メインの輸液ルートと最大4本*の側管ルートで構成された一体型輸液セットです。
 それぞれの側管ルートに輸液バッグを順番につないで投与することでバッグ交換によるHazardous Drugs (HD) の漏出を防ぎ、安全に投与することができます。

※側管1本タイプ、2本タイプ、4本タイプの三種類



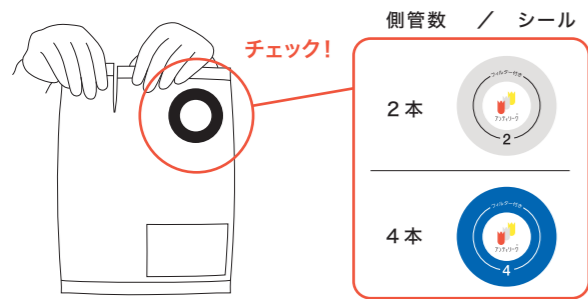
童謡「チューリップ」の歌にある『♪赤・白・黄色〜』の順番で
 お使いください。

オートプライミングの操作ガイドを動画でご覧いただけます。

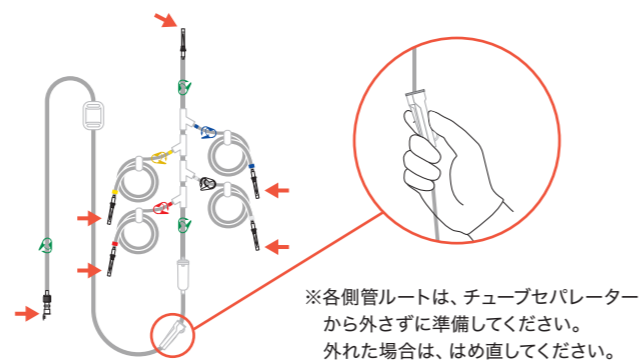


1. 準備

- 1 開封前に側管数およびフィルターの有無を確認します。



- 2 各側管キャップに緩みや脱落がないことを確認し、ローラークレンメのみを閉じてください。



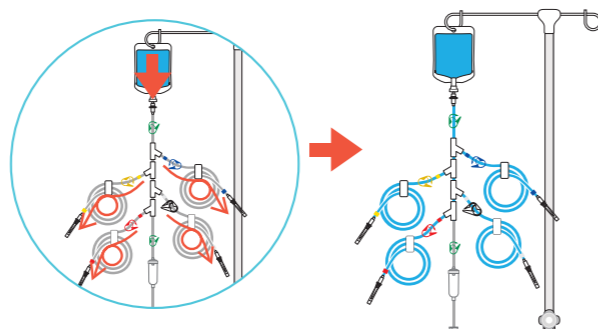
2. プライミング

⚠ 延長チューブと組み合わせて使用する際は先に **右ページ下部の「ポイント」** をおこなってください。

- 1 メインルートのびん針を、生理食塩水の輸液バッグに上から下へしっかりと刺入してください。



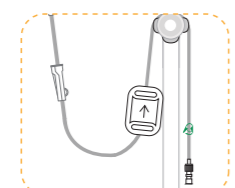
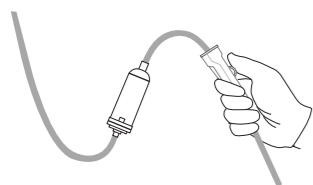
- 2 点滴スタンド等に輸液バッグを吊ると、上部側管ルートのプライミングが開始されます。



- 3 上部側管ルートのプライミングが終了したことを確認し、液溜まりを作るために点滴筒を逆さにしてください。

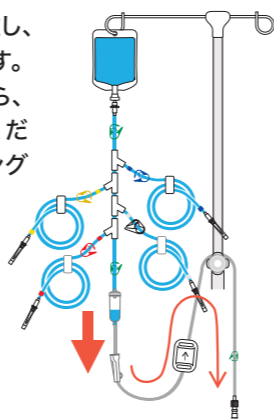
下図のようにローラークレンメを持つとスムーズです。

* フィルター付きの場合 *

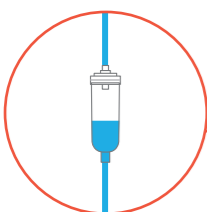


フィルター記載の矢印が上向きになるように保持したままおこなってください。

- 4 ローラークレンメをゆっくり開放し、点滴筒内に液溜まりを作ります。三分の一程度まで溜まりましたら、点滴筒をもとの位置に戻してください。下部ルート内のプライミングが開始されます。

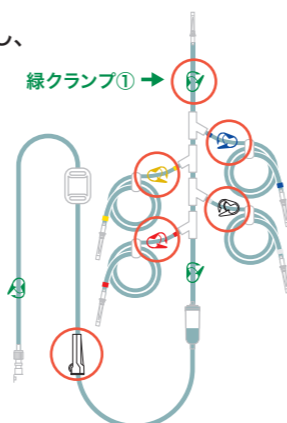


- 5 ルート内が完全に充填されると、プライミングは自動で終了になります。



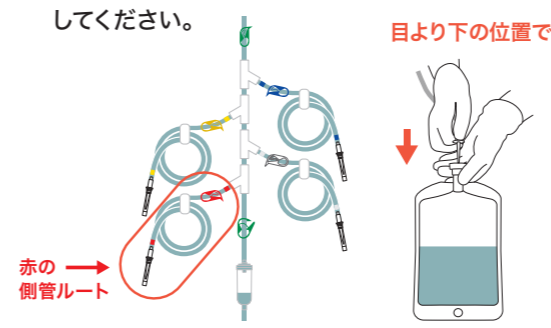
点滴筒内の滴下が止まりましたら、プライミング終了の目安となります。

- 6 エアが完全に抜けたことを確認し、メインルートの**緑クランプ①**と全ての側管クランプ、およびローラークレンメを閉じてください。

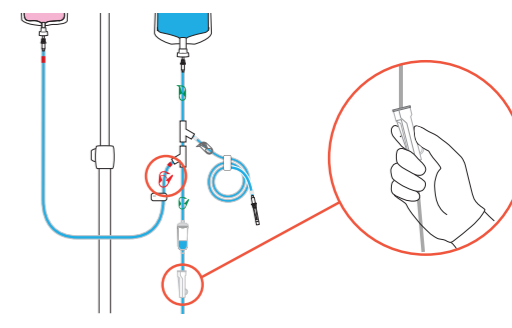


3. 投与

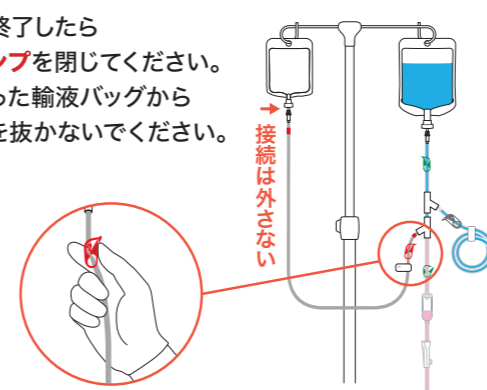
- 1 赤側管ルートから使用します。びん針キャップを外し輸液バッグにびん針を、上から下へしっかりと刺入してください。



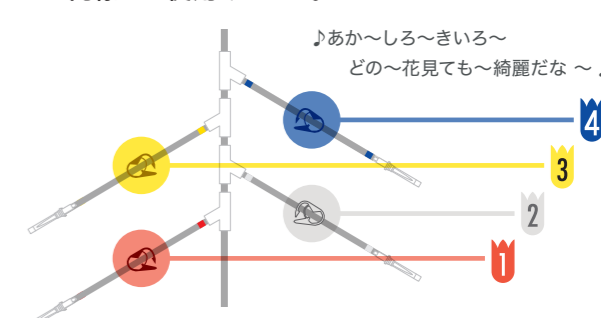
- 2 赤クランプを開放後、ローラークレンメで速度を調節しながら投与を開始します。



- 3 投与が終了したら赤クランプを閉じてください。空になった輸液バッグからびん針を抜かないでください。

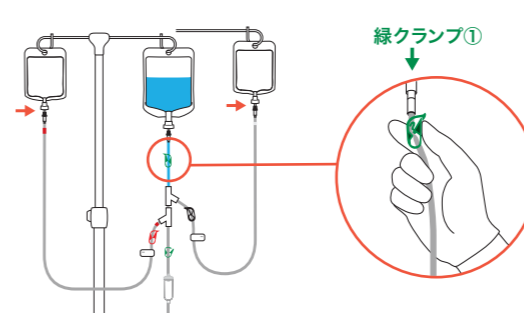


- 4 2剤目以降の投与がある場合は、『白、黄、青』の順番で同様にご使用ください。



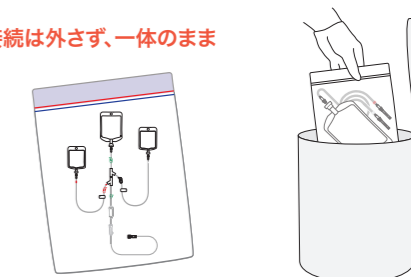
4. 廃棄

- 1 全ての投与が終了したら**緑クランプ①**を開放し、メインルート内を生理食塩水でウォッシュアウトしてください。



- 2 HDの入っていた輸液バッグは接続を外さず、アンティリークと一体のまま、ジッパー付きプラスチックバッグに入れて密封してから専用の廃棄容器に廃棄してください。

接続は外さず、一体のまま



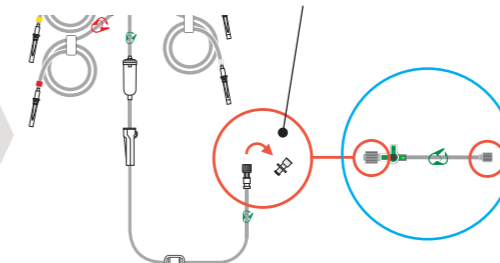
ポイント 延長チューブと組み合わせて使用する際のプライミング (方法)

左ページ

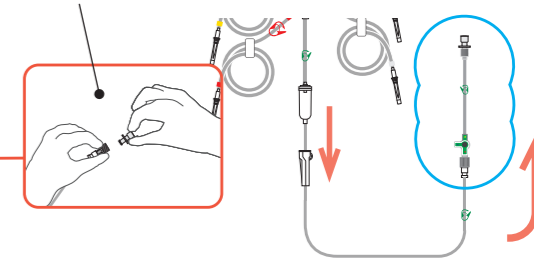
2. プライミング

の前におこなってください

- 1 アンティリークの末端に装着してある疎水フィルターキャップを外してください。



- 2 先ほど外した疎水フィルターキャップを、延長チューブの末端に装着してください。



ご使用予定の延長チューブを装着します。

そうすることで延長チューブ先端までオートプライミングを行うことができます。